



週)報

2013~2014年度))) R I会長)ロン)D・バートン)
『ロータリーを实践して)みんなに豊かな人生を』
))))))))))第 2570 地区ガバナー)中)井)眞)一)郎)

国際ロータリー
第 2570 地区

狭山中央ロータリークラブ

〔例会場〕狭山東武サロン〒350-1305) 狭山市入間川 3-6-14)TEL)04-2954-2511
〔事務所〕〒350-1305)狭山市入間川 1 -24-48)TEL)04-2952-2277)FAX)04-2952-2366
<http://www1.s-cat.ne.jp/schuohrc/E> - mail:schuohrc@p1.s-cat.ne.jp
会長)栗原憲司) 会長エレクト)稲見)淳))副会長)高田虎光) 幹事)宮野ふさ子

〔第 3 グループ内の例会日〕 狭山(金)、新狭山(月)、入間(木)、入間南(火)、飯能(水)、日高(火)、狭山中央(火)
所沢(火)、新所沢(月)、所沢西(水)、所沢東(木)、所沢中央(月)

第 990 回(4 月 15 日)例会の記録

点 鐘 栗原憲司会長
合 唱 我らの生業
第 2 副 S A A 松浦君、宮岡君

出席報告

| 会員数 | 出席者数 | 出席率 | 前回修正 |
|------|------|--------|--------|
| 35 名 | 28 名 | 75.76% | 81.82% |

会長の時間

栗原(憲)会長



今日はロータリーの友 3 月号に載っておりました、RI 会長の記事を読ませて頂きます。

「世界の子供に識字力を与える」

親愛なるロータリアンの皆さん、アメリカ・オクラホマ州ダンカンで育った私は、誰もが読み書きできるものと思っていました。私が通った小学校では、7~8 歳ころまでには、普通に読むだけでなく、本を上からのぞき込んで読むことも求められていました。クラスのみんなが一人ずつ順番に本を朗読しました。もちろん、みんなに絵を見せながら、大きな声で朗読したいと思っても、簡単にできることはありません。

小学生のころは毎週そんな練習をしていたので、最後には、どんなふうにも本を持ってもすらすらと読めるまでになりました。

読み書きの大切さを再認識

当時、そのようなスキルについて、あまり深く考えたことはありませんでした。数か月前、アラバマ州ディケーターで行われているロータリーのプロジェクトを訪れた際、私が 1 年生の教室に入ると、6 歳の児童が学ぶその教室で、本を読むよう頼まれました。もちろん私は、喜んでその願いに応えました。腰を下ろし、彼らが選んだ本を開き、約 30 人の小さな子どもたちに向かって、私が 2 年生の時にしたのと同じように、上からのぞき

込んで本を読み始めました。

ロータリアンが手助け

つまり、半世紀以上前に学んだのとまったく同じことをしたのです。しかし、大人として、そして特にロータリアンとして、その経験は異なることのように思えました。私は、読み書きを一生懸命学んでいる子どもたちのグループに対して本を読んでいました。私たちは彼らの教室を見学しました。その学校では、ロータリアンが毎週通い、手助けが必要な子どもたちに一対一で本を読んであげています。その教室にいる子どもたちが成長して、読み書きができる大人になるであろうことに疑いはありませんでした。たとえそれが上からのぞき込んでいるような姿勢でも、大人たちが子どもたちに本を読んで聞かせるように本を読むことができるようになるでしょう。

私たちの活動を祝う

世界には何百万もの恵まれない子どもたちがいることを、私たちは知っています。だからこそ、私たちは基本的教育と識字率向上をロータリーの奉仕の優先事項にしています。

今月は識字率向上月間です。地球の裏側にいる子どもであれ、まさに自分の町にいる子どもであれ、私たちが行っている子どもの識字率向上に対する支援が、どんなに素晴らしい贈り物かを、あらためて考えてみましょう。

私の子供の頃は、あまり本を買うような小遣いがありませんでしたので、学校の図書館の本を沢山読んだ記憶が思い出されました。

幹事報告

宮野幹事

1. ガバナー月信 4 月号について
2. 「ロータリーの森」奉仕活動参加について
3. パブリックコメント中間報告について
4. 2014~2015 年度地区予算・地区分担金内訳について

5. ライラデー開催について
6. 埼玉県腎・アイバンク協会、総会開催について
7. 狭山市・入間市暴力団排除推進協議会総会開催について
8. 青少年を育てる狭山市民会議総会開催について
9. 例会変更 所沢西RC 入間RC 新所沢RC
10. 受贈会報 飯能RC 入間RC 入間南RC
11. ハイライトよねやま 169号
難民を助ける会AARニュース4月号

委員会報告

ロータリー財団)))))))))) 柴田委員長)

ようやくマッチング・グラントのお金がフレロータリークラブに振り込まれました。

4月7日、16:49に、フレロータリークラブのドルゴルさんより、私宛のメールが事務局に届きました。ドルゴルさんは新しい担当の方になりますが、この方も日本語が出来、ほっとしております。内容と致しましては、モンゴル干ばつ防止植樹事業の資金が、金額は10,685ドル、国際ロータリークラブより入金されたとのことでした。この報告を頂き、やれやれと思った次第でございます。1年半かかっております。

一昨年5月、片岡さんというロータリー財団日本支局の事務員の方が非常に精通されていたということもあり、この方を頼って我々の計画をお願いにあがりました。そこでマッチング・グラントを推薦され、取り組んできた訳でございます。昨年3月末までということでバタバタしながら申請をし、しかし少しずつ遅れこんで4月半ばまでいってしまったと思いますが、何とか言われたことをクリアし、申請が終了しました。しかし6月にナラさんというフレロータリー関係者の方とあちらの会長さんにお会いした時、私どもが申請したものの内容につきまして、実施国が報告書を起こすのではなく、依頼する側、私どもから報告書を出すという部分は、今後の手続き上非常に難しいので、実施国の報告書に変えた方が良いのではという示唆がありました。

慌てて戻り、こちらの支局の伊関さんに手続きをして頂き、8月位までかかりましたでしょうか、やれやれと思い2か月位経ったところで確認致しましたところ、伊関さんが支局を退社されたとのこと、後任の方に確認をしたところ、まだ振り込みが出来ていないとの事でした。それと同時に、フレロータリークラブの方から100ドル口座に入れる必要があったのですが、それもまだ入っていないとの事でした。その結果いろいろと処理を進める為に、それからまた2か月かかってしまいました。

このようなことがあった中で、やっと今日、報

告書を頂いたことについて、本当にほっとしているところでございます。皆さんにこのような報告が出来たこと、本当に喜ばしいと思います。

そしてもう一点、重要な報告がございます。今現在パスト会長の栗原成実さんが、知人の農業の指導ということで依頼を受け、先般4月11日~18日にかけてモンゴルに行っております。ノモンハンという国内線を使って行っているそうです。リンゴの苗を10本持って行くので、私は心配になり、税関が通るように何とか計らって欲しいとジグジッドさんをお願いを致しました。国内の方は何とかするので、出国時は自分たちで対応してくれるとのこと、そしてタミラ君と連絡を取り、4月11日、成実さんがモンゴルに着いた時には迎えに来てくれるとの約束をして頂きました。

4月12日、私の携帯に連絡が入り、無事タミラ君と会い、苗10本をフォレストア NGO に回すようお願いをして、16日には会う約束となっているそうです。タミラ君は元気でしたが少し痩せていたそうです。

そして来たる6月13日には私共が6人で行って参りますが、その時には事前の打ち合わせをしながら、タミラ君に先導して頂くという約束を取り付けておりますので、安心して行ってきたいと思っております。

R情報・雑誌)))))))))) 片山委員長)

4月は雑誌月間でございますので、いつもより詳しくお話ししたいと思います。

【横書】

3頁にはRI会長のメッセージが載っております。「ロータリーの雑誌で経験を分かち合う」ということで、『親愛なるロータリアンの皆さん、ロータリーの雑誌を読むことは、ロータリークラブの例会に出席するのと同様に、ロータリアンであるための経験を分かち合う大切な要素です。オーストラリアの『Rotary Down Under』であれ、日本の『ロータリーの友』であれ、ロータリーの出版物を手にとれば、それらの一冊一冊が提供するもの、何を意図しているかがわかるでしょう。それは情報を提供し、やる気を起こさせるということです。最新のロータリーニュースを掲載し、ロータリーの奉仕に役立つ新しいアイデアをもたらし、そして私たちにとって適切で重要な記事を届けてくれます。私にとって世界中で発行されるロータリーの出版物は、個々のクラブがローカルなもので、地域社会に根差した存在で、真に地球規模でのネットワークを実践しているという、ロータリーの最大の強みを実際に表現してくれるものです。』と書かれております。他にも書かれておりますので、皆さん是非読んで頂きたいと思っております。

5頁の写真は、「東日本大震災で被災した地域のため、日米のロータリアンが協力して支援を続けています」ということで、16頁~25頁まで書か

れておりますので、皆さん是非読んで頂きたいと思えます。

8 頁には「ロータリー雑誌の仲間たち」ということで、色々なパンフレットのようなものが載っております。私は初めて見たのですが、ロシアにもロータリークラブがあり、友のような雑誌を5,000部発行しているようです。そして9頁一番下の右から2番目に「扶輪」という雑誌が載っております。台湾・香港・マカオ・モンゴルで月刊誌として、中国語で11,800部発行されているようです。これも初めて知りましたが、なかなか良いものがあると思えました。中国にはロータリークラブはありませんが、台湾や香港が中国語を使っている関係で、中国語で書かれているのだと思えます。

13 頁の『友』電子版をご存知ですか？というところで、私も初めて読んだときは、このようなものがあるのだと思えました。皆さん大事な所ですので、是非読んで頂きたいと思えます。

33 頁、本日はガバナーノミニーの高柳様がいらっしゃいますが、ガバナーがどのように決まるのかということが詳しく書いてあります。ここにはガバナーノミニー・デジグネートと書かれておりますが、「(役職に)指名された(がまだ未就任の)」という意味だそうです。大切な所ですので、是非読んで下さい。

【縦書】

13 頁、友愛の広場では、東京板橋の鈴木さんという方が「雑誌月間にちなんで」と、投稿しております。この方は月一回、例会を30分使って「友」を紹介するそうです。

卓話の泉、18 頁「免疫とアレルギー」、19 頁「シェールガス革命」の部分は参考になりますので、是非皆さん読んでみて下さい。



「桜に酔う」
鎌倉の大仏の前の見事な桜

表紙は愛知県岩倉市に流れる五条川の「のんぼり(こいのぼり)洗い」の写真です。



「外来卓話」・・・・・・・・

『会員増強について』

国際ロータリー第2570地区

ガバナーノミニー高柳育行様

(本所RC)



先ほど幹事さんから月信を回覧するとお話がありました。今月号の月信を読んで頂きますと、1ページ以上に亘り私のことが書かれております。私はノミニーとしての資格がないということで、現ガバナーが言っておりますが、それにつきまして回覧をされているのかと思えます。それもありません。前年度地区会員増強委員長という肩書きでお話させていただきます。

先週、中井ガバナーと1時間程懇談をしてみました。月信に掲載する以上、何か意図があるのだろうということで、ガバナーとしてはどのようなお考えなのかということをお聞きしました。私自身が会長の経験が丸12ヶ月なく、その12ヶ月ないということをお聞きしてRIに許可頂くため申請書を出し、OKを頂いていたのですが、その書類の日にちに不備があったということで、それも今聞いているわけですが、これにつきましてはもう一度申請し直せば、まず許可が通るだろうと中井ガバナーも思われており、補佐の方を今回書かれております。

地区に出られている方は地区の様子をご存知かと思えますが、ガバナーを含めて、ガバナー補佐も実際にはなかなか見つからないということが、実状かと思えます。私につきましても、資格がないことは重々承知しておりますし、それに対してはガバナー補佐の時には日本事務局に了解をとり、今回のノミニーについてはRIの了承をとってという手続きを踏んだわけですが、今になってそれを中井ガバナーがメールの配信や月信で、皆さんにお伝えしているという状況です。

私を推薦して下さった方々は、そのまま放っておけばいいという意見が大半でございまして、中井ガバナーとお話した時も、ではその解決策が何なのかといった時に、結論と致しましては、一番目が『ノミニーを辞退して選挙をする』ということ、二番目が『ガバナー補佐という肩書きを今後使わず、ガバナー補佐の時に地区から頂いた10

万円に相当する寄付をする』ということ、三番目が『そのまま放っておく』という話でございました。月信に書かれている本人がそのまま放っておくという解決策を示すことが、私にも理解ができないところではありますが、一応手順は踏んだと思っておりますし、このような状況になりますと、私を推薦して頂いた方もありまして、辞退して選挙をするということもまた地区を混乱させることになるかと思っております。

こちらのクラブの田中八束様から、1ヶ月以上前に卓話のお話を頂きまして、快くお受けしたのですが、その後このようなことがありまして、1週間ほど前に伺っていいものかと田中さんにお聞きしましたが、是非来て頂きたいという回答頂き、今日はお邪魔をさせて頂きました。色々皆さんの考えもあるかと思ひますし、もし受けたとして、続けたとすると、難しい状況になるのだろうということも中井ガバナーから言われました。しかしそんなに険悪なムードではなく、1時間程お話ができ、その後クラブに持ち帰り何人か地区のバスターガバナー等にお聞きした中では、三番目の解決策で良いだろうということでしたので、本日お伺いをさせて頂きました。

前年度が地区の会員増強委員長という立場でしたので、そのテーマでお話をさせて頂きたいと田中さんにお話をしましたら、会員増強も出来ているし、女性の会員もいるとのこと、会員増強については対して話をするのではないよというお話を頂きました。しかしながら私にとっては前年度会員増強委員長ということですし、ガバナーノミニーにつきましては、今のような状態でございます。しかも皆さん素晴らしいメンバーがお揃いで、ロータリーについても十分ご理解頂いていることだと思いますので、そういった中でやはり私に話ができるのは会員増強のお話かと思ひ、お手元に資料を用意させて頂きました。

会員増強の目的とは、『組織維持のため』『財政基盤を確立するため』『新しい仲間をつくるため』『クラブを継続させるため』ということで、今会員増強が大切だ、R I の永遠の課題だと言われております。狭山には、狭山 RC、新狭山 RC、狭山中央 RC と3つクラブがあるようですが、人口が154,676名で、そこにロータリアンが66名おります。それと比較致しまして本庄市は人口が79,788名と約半分、そこにロータリンが103名おります。これは人口が約半分で、ロータリアンが5割増しという状況でございます。従いまして、現状に満足するのではなく、是非仲間を増やして欲しいとお伝えしたいと思ひます。

現在本庄 RC の女性会員が7名、こちらのクラブは6名ということで、あまり女性ということをお話してしまうと、男性女性と分けて差別をしてしまうことになるのかもしれませんが、女性の会員がいないクラブは沢山ありますし、本庄クラブでも約1割でございます。全世界で見ても

っと高いのですが、日本全体でみると大体4%位ではないかと思ひます。もう一度クラブとして考えて頂けたら、その何かを考えるきっかけを私が作れたらということが、本日の私の卓話になると思ひます。

会員増強ということで、新しい友人ができる、ロータリーに入って色々な友人ができるということは、非常に大きな価値なのだろうと思ひます。私は歯科の開業医でございますが、本庄市児玉郡の歯科医師会の会長をしております。今日は、本庄市の他にある3つの町のうちの1つが町長選の事務所開きで、歯科医師会の会長として激励の挨拶をしてこちらに参りましたので、時間がギリギリになってしまいました。ロータリーに入って友人が出来るかと思ひますのは、学生のときであれば学校の友達があるかと思ひますし、仕事の仲間というものは、皆さんも仕事を通じて出来ると思ひます。私の場合には、患者さんと知り合いが出来ますが、しかし後は同業者となってしまいます。ロータリーを通じて色々な職業の方と知り合いになれるということは、大きなことであると思ひますし、会員維持ということで見えていったときには、その友であり続けるという所やはり大切な所なのだと思ひます。従って、会員を増やすという中では、新しいクラブを作るということがもう一つありますが、もう一度、よく退会防止ということが言われますが、せっかく仲間になったのですから、皆さんと末永くロータリーを楽しむと共に、人生を楽しめる、そんな関係で続けられたらと思ひます。

今日は SWOT 分析を考えて頂きたいと思ひます。【S：強み】、狭山中央ロータリークラブはこの狭山市にある3つのロータリークラブの中で最も会員が多く、女性の会員もおり、この地区では素晴らしいクラブだと思ひます。しかし見方を変えた時、人口に対してもう少し仲間がいても良いのではないかと思ひます。また本庄もそうなのですが、本庄 RC の会員数が一番多く、その子クラブの会員数が少ないということが一般的なのですが、こちらは狭山 RC の会員数の方が少なく、狭山中中央 RC がその3倍いらっしゃるという状況で、それは皆さんのクラブを思う心、素晴らしい方が集まっているからこそ、会員が維持できているのだろうと思ひます。そんな中でクラブの強みを皆さんに書いて頂きたいと思ひます。

実は私、会員増強で卓話にお伺いした時に、皆さんに強みを書いて頂きました。あるクラブでは、「楽しい集まり」「団結力がある」「異業種交流で友人が増える」「経験豊富な先輩が多い」「年齢に|関係なく行動が積極的だ」等々、沢山挙げて頂きました。それぞれのクラブに良さがあるのだと思ひますし、その良さでクラブを支えているのではないかと思ひます。是非大切にして頂きたいことだと思ひます。

では反対に【W：弱み】について考えて頂きた

いと思います。なかなか自分のクラブの弱点は言い辛いと思います。そして良さだと目一杯であったものが、弱みは少し少ないと思います。あるクラブに書かれていたものは「若者から認識されていない」「若者が入会しづらい」「例会時間と仕事重なる」「ロータリー研修がない」等々で、この辺の所が重なるのかと思います。この弱みをどのように、自分のクラブとして良い所にしていくのか、視点が変わってくると思います。そちらを考えて頂ければと思います。

次に【O:機会】何かのイベント、奉仕活動等、このクラブの特徴的なものがあるかどうかというところですが、先ほど財団の報告の中でモンゴルとのマッチング・グラントの件がありました。1年以上かかり、やっと締結が出来たというお話でしたが、素晴らしいと私も感じました。壁が沢山あると途中で諦めてしまうこともあろうかと思いますが、それを最後までやり遂げたという、狭山中央 RC の力、ロータリーに対する奉仕の心を感じた次第でございます。皆さんが常日頃、自分のクラブに対して色々とされているわけですが、退会して初めて良さに気が付いたり、所属していると何ら感じないままで過ごしてしまったりしている場合もあるかと思えます。自分のクラブがどうなのだというのを、考えて頂く機会になれば良いかと思えます。他クラブでは、「オープン例会を作り、オブザーバー参加を若い人に勧める」「国際交流を進める」「会費を安くする」「ロータリーの認知度を上げる」「会員各々が成長するプログラムを企画する」「例会を出席しやすい時間にする」「時代に合った企画、行動の実施」等々を挙げて頂きました。

最後に【T:脅威】自分のクラブにとって不安に感じている部分を考えて頂きたいと思えます。先ほどからのお話ですと、何の心配もない、良いクラブだということに尽きるのかと思えますが、他のクラブでは「会員減少が止まらないこと」「RI 理事、ガバナー、各クラブとの間に認識上のずれがある」「早期退会者がいること」「高齢者が多く自然減となる」「会費が高いこと」等々が挙げられました。皆さんクラブではこんな心配はないのだと思えますが、他のクラブでこのようなことが挙げられているということを、情報として皆さんにお伝えすることで、さらに自分たちのクラブの良さを考えて頂ければと思います。

ロータリーに入って良かったことは、皆さん沢山あると思えます。昨年は、私個人と致しまして大変印象に残る一年でございました。今も違った意味で渦中の人間になっておりますが、なんと皆さんにお認め頂きたいと思っております。

ロータリーで私は育てて頂いたと思っておりますし、ロータリーの経験が非常に私の人生にとっては貴重な物だと思います。そうした意味では、今少し残念に思っておりますが、この機会を大切にしたい、今日皆さんにお話させて頂くことも、私が単なる歯科の開業医であれば、このような機会もなかったのだらうと思えますので、有り難いことだと思います。皆さんにとっても「情報交換が出来る」「自信を持てる」「友人ができる」「人生経験を共有できる」「自分自身が成長できる」といったことがあるのではないかと思います。ロータリーに入って良かったことを皆さん自分なりに思い出しながら、ロータリー人生をさらに続けて頂きたいと思えます。



高柳育行様(ガバナーノミニー、本庄 RC)

本日は卓話をさせて頂きます。よろしく
お願い致します。

栗原(憲)君 国際 RC 第 2570 地区ガバナーノミニー高柳育行様、第 3 G ガバナー補佐室伏秀樹様、ようこそお出で下さいました。よろしくお願い致します。

宮野君 高柳ガバナーノミニー様、室伏ガバナー補佐様、ようこそお出で頂きました。卓話楽しみです。

次の例会

第 2 副 SAA 野口(留)君 沼崎君

5 月 13 日(火) 12:30 ~ 13:30

所沢税務署長 齋藤喜久雄様

